

# 衣服の大量廃棄問題の周知

Make people aware of the problem of mass disposal of clothing.

山田 茉深

指導教員 西野 隆司

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 値値創造研究室

キーワード：衣服、漫画、擬人化、廃棄、

## 1. 研究の動機と目的

普段身に付いている衣服について、便利に洋服を安く手に入れることができるようになった反面、大量廃棄の問題があると言うことを知り、興味を持った。

この問題は、消費者のみの問題ではなく企業側にも大きな問題があるが、企業に直接働きかけるより消費者側に理解を深めて貰い、買い方の意識を変えることにより、企業側へも見直すきっかけとなると考える。

## 2. 研究意義

日常生活の裏に隠れた洋服の廃棄問題を消費者に知って貰うことにより購入意識の変化を促す。それにより企業側の生産の見直しや廃棄問題への活動を誘発させる。

## 3. 調査内容

初めに、現在の衣服廃棄の状況について調べた。衣服の廃棄量は年々増えていく傾向にあり、リサイクルも間に合わないほどの量にまで膨れ上がってしまっているという事が分かった。

次に、廃棄の原因と影響について調べた結果、廃棄される服の4枚に1枚は新品の服であると言う事実が浮かび上がり、その原因は企業によるものが多いと言う事が分かった。また、そういう服を貧しい国に寄付をすると言う動きがあるが、実際には現地の産業を圧迫し、潰してしまうため、結局は廃棄されていることが多いと言うことを知

った。

このような内容を、洋服を買う機会の多い若者を中心に知ってもらうための方法として、若者はSNSから情報を仕入れている傾向にあると言うことが分かったため、SNSを利用した周知方法を利用することにし、制作に取り掛かった。

## 4. デザイン展開

10代～20代の若者を中心にターゲットとした。文字だけの説明ではなく、よりわかりやすく身近にこの問題を感じてもらうために、漫画を制作することにした。漫画をSNSに載せることにより拡散をさせる方向で考えている。

廃棄方法や原因別に3～4ページ程度の漫画を作成、それぞれに服の擬人化ものを主人公として登場させることによって、問題に対して身近に感じてもらうことにした。



写真1：廃棄方法別の擬人化案



写真 2：コマの一例

## 5. 今後の展開

現在は6パターンの新品廃棄と2パターンの古着廃棄を取り上げ、制作している。順次漫画を公開し、反響を見ながらいろんな廃棄について知ってもらえるように、様々な媒体で展開していくと考えている。

## 6. 参考文献

- ・中村和代・藤田さつき「大量廃棄社会 アパレルとコンビニの不都合な真実」、光文社、2019
- ・“SUSTAINABLE FASHION, これからのファッションを持続可能に”、環境省,  
[https://www.env.go.jp/policy/sustainable\\_fashion/](https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/) (2022. 7. 21 閲覧)